



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

秋

校長 道山 正史

最近、急に冷え込んで来ました。長雨やら台風やらもあり、9月半ば頃からあっという間に夏はどこかに行ってしまいました。

「秋深き隣は何をする人ぞ」これは、松尾芭蕉の最晩年の句ですが、はじめの5音を「秋深し」で覚えている方も多いかと思います。一般的には「秋の深まりと共に、静かに空気が流れ、隣の人々の生活音も聞こえてきて、何をしているのだろうか」と解釈されるそうです。人の多い地域に住んでいると「隣の人は何をしているのかわからない」なんていう解釈も成り立ちそうですが…。

さて、「秋」には様々な形容があります。いわく「食欲の秋」「実りの秋」「スポーツの秋」「勉学の秋」「読書の秋」「芸術の秋」「睡眠の秋」「行楽の秋」など。要するに、何をすることも適した季節なのです。それは、夏から秋になると気温が18度くらいに下がり過ごしやすくなること。でも同じくらいの気温の梅雨と比べると湿度が低いので過ごしやすい。なので秋は物事に集中するのに適した季節と言えるでしょう。また、夜の時間も長くなることから、家で過ごす時間も増える。時間が長くとれると1つのことにじっくり取り組みやすいという論法です。

典型はなんといっても「読書の秋」。これは「灯火親しむべし」という韓愈の詩があり、この詩の意味が「秋は過ごしやすい季節で、夜には明かりを灯して読書をするのに最適だ」ということなのだそうです。そしてこの詩を夏目漱石が「三四郎」という小説の中で取り上げてから「読書の秋」が広まったといわれています。他にも「スポーツの秋」は、おそらく前回の東京オリンピックの開会式が10月10日に行われ、「体育の日」として制定されたことから広まったことは確かでしょうし、「食欲の秋」は夏に弱った体を元気にしようと、そして米、野菜、果物、魚などが収穫時期となり、自然と食欲がわくのでしょう。

秋は、たくさんを経験したり、新しく始めたり、何かにじっくり取り組んだりするのに最適な季節です。自分に合った秋を見つけてみましょう。